

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	愛媛県松山市別府町183番地2
自己評価作成日	平成24年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 9月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①四季折々、たくさんの花に囲まれ、季節行事を積極的に行うことで四季を体感いただいている。 ②24時間365日往診可能な協力医療機関と連携し、身体的にも精神的にも安心した生活を送ることができている。 ③職員が一体となって施設運営ができるよう、話し合う機会をより多く設け、個別面談なども行うことで職員個々のニーズに対応できるよう努めている。 ④運営方針、行動指針を掲げ、それに向かって邁進するよう、各職員が意識して業務に当たるよう努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に優しく接する管理者を中心に職員のチームワークも良く、利用者同士も仲が良い。災害対策を積極的に取り組んでおり、高く評価できる。終末期の対応については、24時間365日往診可能な協力医療機関と密に連携し、利用者がその人らしい最期を迎えることのできる体制が整っている。利用者の身体状況を把握し、状態の変化にも素早く対応できるため、利用者や家族は安心感がある。「安心・安全で楽しく、地域の中で共に支え合って生活できる場を提供します」という理念を実現するために、職員は日常会話の一つひとつを丁寧に傾聴することを大切にしている。利用者一人ひとりが、自分らしくいきいきと生活できるよう支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 媛の華

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 大原 チスカ

評価完了日 平成24年8月28日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎年度、運営方針に基づき、運営方針・行動指針を作成している。それら方針・指針は、施設内での掲示及び4月職員会議での発表により共有し、実践している。また、それらを常に念頭に置き、朝礼、夕の引き継ぎ、職員会議、職員会議後のユニット会議等において確認している。</p> <p>(外部評価) 理念は、認知症介護に必要な視点を的確に盛り込んでおり、利用者の笑顔や職員のやりがいに結び付けている。「安心・安全で楽しく、地域の中で共に支え合って生活できる場を提供します」という理念を、職員同士が確認しあって共有している。理念を常に立ち戻る基本的な考え方として大切にし、実践に結びつけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 施設行事（地方祭、栗の里移動販売など）や運営推進会議に民生委員、地域住民の方のご参加を仰ぎ、交流している。施設の行事の際にも参加を呼び掛けたり、地域の小学生が訪問したり、地域表示への参加を通じて交流している。また、民生委員の方が家庭菜園で栽培された野菜を持って来て下さるなど、日頃より当施設のことを気に掛けて下さっている。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の一員としてふれあえる場面づくりや、地域の方に事業所を訪問してもらえる工夫に取り組んでいる。小学生の訪問や秋祭りでの交流など、地域とのつながりを大切にしながら暮らせるよう支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 民生委員、地域住民に運営推進会議へご出席いただき、近況報告や認知症に関する研修の場を設けることで、施設での取り組みを理解していただいている。また、近隣に居住する認知症の高齢者について、関係機関と適宜連絡を取り合い、事故（火災等）の発生防止に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議において毎回、近況報告を行い、利用者ケアについてもプレゼンテーションなどを通じて報告を行っている。また、出席者1人1人に意見を聞き、得られた評価、情報を参考にしてサービス向上に繋げている。具体的には、看取り介護について意見交換を行ったり、防災対策のアドバイスを取り入れるなどしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、一年間のテーマを職員も交えて検討している。会議には、職員も参加し内容を共有している。活発な意見交換を行って詳細に記録し、次回につなげている。会議を運営上重要なものと位置づけ、サービス向上に活かせるよう積極的に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村とは日頃より必要に応じて連絡を取り、施設運営に協力体制の構築に努めている。運営推進会議及び季節行事には出席をお願いしており、利用者の様子を見ていただいたり、意見・助言・指導を受け、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 日頃から市とは事務手続きなどで関わりがある。市の担当者から、新しい情報やアドバイスをもらえるよう、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する施設内研修を実施し、身体拘束について正しく理解するよう努めている。また、実践においては、日中・夜間の巡回を密に行い、危険行為の見られる利用者には常時声掛けを行っているが、その際、利用者の負担とならない対応を心掛けている。その他、鈴や音の鳴る物などを使用し、事前に利用者の行動を察知する工夫をしたり、マットレスを使い、転倒時の事故を最小限にする工夫を行っている。更に、事故発生時には、検討会をその日のうちに実施し、事故の再発防止に努めている。	
			(外部評価) 事業所内で身体拘束に関する勉強会を開き、職員は理解を深めている。事業所は交通量の多い通りに面しているが、職員が見守りを徹底し、玄関は開放して自由な暮らしを支援している。夜9時から朝5時まで安全のため玄関を施錠している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止に関する施設内研修を実施し、高齢者虐待及びその防止に関する理解を深めている。日々の介護の中で利用者とのコミュニケーションをすることで、信頼関係を築くと共に、無意識のうちに虐待が行われることの無いよう声かけやケアの内容を職員相互に確認し合っている。その他、朝礼・夕の引き継ぎなどにおいても言葉掛けの仕方やケアの仕方について、管理者より指導がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 高齢者虐待防止に関する研修の中で「成年後見制度」に関する内容を盛り込み、施設内研修を実施している。現在、2階利用者2名(内、1名は申請中)が本制度を利用しており、後見人(家族)と連絡を取りながら利用者ケアに当たっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネジャーが中心となって契約を行っており、法改正等において契約内容に変更が生じた場合には、必ず書面を以て同意を得ている。また、家族から質問を受けた際には、適宜説明を行うことにより、ご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの要望に対しては、本人が希望する職員(管理者含む)が傾聴し、本人の意向に沿ったケアができるよう努めている。また、家族からの要望があった場合も同様であり、いずれの場合においても、必ず管理者、職員が情報共有し、検討を行うことで、より良い運営ができるよう努めている。更に、運営推進会議のご案内を利用者家族に郵送すると共に、声掛けなどを行い、参加を促している。利用者にも運営推進会議に参加してもらっている。 (外部評価) 利用者や家族に何でも話してもらえよう、雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望はミーティングなどで話し合い速やかに対応し、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 朝礼、夕の引き継ぎ、職員会議及び個別に話し合いを行い、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。具体的には、職員会議において事前に各職員から議案を募り、その内容に沿って会議を進行したり、要所場所での提案があった場合にも可能な限り意見や提案が現実のものとなるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 日頃から良いコミュニケーションが図れるよう、管理者が職員一人ひとりに声をかけ、相談にのるようにしている。話しやすい環境づくりができています。職員会議では、議題提案書に職員が思っていることなどを記入し、会議で話し合い運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 設問の通り実践している。具体的には、介護職員処遇改善交付金において、職能に応じた配当を行ったり、給与についても職能等に応じて職員が安心して生活できるようにできる限りの努力はしている。その他、職員から申し出のあった物品購入や設備整備についても可能な範囲で行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内研修の実施、施設外研修への参加に向けた支援（シフト調整、研修費用支給など）、新任職員に対する新任研修（個別に実施）を行っている。更に、各ユニットごとに主任制度を導入することで、主任による介護技術の向上や教養指導などにも取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他の施設の運営推進会議や夕涼み会に出席させていただき、交流を図り、ネットワーク拡大に努めている。また、他施設からも当施設運営推進会議等にご出席いただくことで、情報交換などを行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査にて必要な情報収集を行っている。受け入れの際には、皆で情報を共有し、安心して生活していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時には、利用者、ご家族と話をすることで、不安や要望をお聞きし、安心して生活できるよう配慮している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) インテークの段階で利用者理解を行うため、できる限り多く会話する機会を持ち、支援方針に取り入れられるよう利用者の話を傾聴している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者1人1人の思いを大切にし、話を傾聴している。 また、本人から要望がある場合には、管理者を含む職員が話を聞き、本人が納得できるよう話し合いを行うことで、安心して生活できるよう、また、信頼関係が維持できるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月利用料請求時、近況報告をコメントシートにより行い、必要な連絡事項はメールや電話を使用して行っている。また、面会時にも利用者の状況報告や家族の要望を聞き、必要に応じて話し合いの場を設けることで、共に利用者ケアが行えるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 毎日安否確認の電話が入る利用者には快く電話を取り次ぎ、友人が訪ねて来た場合にも、お茶を出すなどして居室にてゆっくり過ごしていただいている。 (外部評価) 家族から情報を得たり、利用者との会話などから大切にしている人や場所を把握するよう努めている。近隣の知人や馴染みの洋服店の方などの訪問があったり、お気に入りの美容院へ出かけるなど、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日常生活の中で、また、レクリエーションの実施や仲の良い利用者同士で外出する機会を設けることで、利用者同士の関係がより深まるよう支援している。また、日常生活においても、衣類の繕い物や介護エプロンの装着、歩行の手助けを行うなど、利用者同士が積極的に支え合う関係を維持できるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 看取り介護終了により退所となっても、葬儀への出席や故人の思い出アルバム作成を行うことにより、最後の時まで利用者家族との時間を共有できるよう努めている。 また、現在入院されている方についても、療養の経過を家族に確認しながら、再度受入できるよう居室を確保している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から利用者様の生活上の希望や意向の把握に努め、ケアプランに反映している。意志疎通が困難な利用者については、家族の意向も考慮しつつ、本人の側に立ったニーズの掘り起こしをしている。	
			(外部評価) テレビを観ている時や食事時の何気ない会話など、日常の場面からも利用者の思いや意向を把握している。意思表示が困難な利用者からも、表情などから思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時だけでなく、日常の会話の中からも、それまでの生活歴や生活環境を把握するために必要な情報を得られるよう努めている。また、入所前に利用していた医療機関や介護保険サービス事業所、及び家族より情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人1人の日々の様子、健康状態を日誌、介護記録上に残し、職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 管理者をはじめ、看護師、SW、各利用者担当職員、ケアマネジャーが協働し、本人や家族の意向を反映したケアプランの作成に努めている。また、ケアプランに即した個別ケア方針を作成し、共有することで、統一したケアができるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、関係者で話し合い、希望や意向を踏まえて、その人らしく暮らせるよう担当者が介護計画を作成している。ケアの実施記録は、利用者の会話など状態を詳細に記録し、計画の見直しで活かされている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者個々の介護記録には、1日の様子、健康状態やその変化、会話の内容、訴え、要望、ケアプランの実施状況を細かく記録し、ケアプランのモニタリングに活用すると共に、情報を共有することで日々のケアに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 外出や食事の献立、買い物の依頼等、個別の要望には可能な限り対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地方祭には地域の子ども神輿に入ってもらい、祭りの雰囲気を楽しんでもらっている。また、日本舞踊、ギター演奏等のボランティアの慰問、小学生児童の訪問が、利用者の楽しみになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 24時間往診可能な協力医療機関と密に連携を取り、 利用者の身体状況の変化に素早く対応している。ま た、必要に応じて他の医療機関を紹介してもらい、専 門的な医療にも対応できている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診ができる よう支援している。協力医療機関による年1回の健診 結果は、家族と共有し、急変時なども24時間体制で 対応できるので、利用者や家族、職員も安心感があ る。眼科は個別の受診となっている。歯科医の往診も ある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の健康上の変化は、その都度、施設看護師、協 力医療機関看護師へ報告している。また、医師の指示 を受け、其々の看護師による適切な医療を受けてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者入院時には、協力医療機関と当施設から情報提 供を行い、スムーズな治療が提供されるよう支援して いる。また、入院中、ケアマネや看護師が入院病院に 出向き、担当医との話し合いを行ったり、担当看護師 との情報交換を実施している。退院前のカンファレン スでは、ケアマネ、看護師、協力医療機関関係者で話 し合いを行い、退院後、利用者が安心して生活できる 援助方針を検討している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケア受け入れ時には、協力医療機関及び当 施設にて提供可能な医療、及びケア方針について、本 人・家族に十分な説明を行い、同意を得て施設での ターミナルケアを実施している。また、利用者の状態 の変化は適切に家族に報告すると共に、職員間で共有 し、その人らしく最期を迎えられるよう支援してい る。	
			(外部評価) 早い段階から、終末期において事業所の対応できるこ と、できないことを利用者や家族に説明している。看 取りについては、協力医療機関など関係者の協力体制 が整っており、看取りの経験もある。利用者の状態の 変化に合わせて家族等へ十分な説明を行ない情報共有 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時の対応について施設内研修を実施すると共に、適宜必要に応じて口頭で説明し、周知するよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災については日中、夜間想定で消防署指導の下、定期的に避難訓練を行っている。地震についても消防より地震体験車なども使いながら、実際の行動について指導を受けた。近隣住民との協力体制構築が必要であるため、次回訓練に参加いただけるよう声掛けを行う。 (外部評価) 災害対策には特に力を入れており、継続的な取り組みや新たな取り組みなど、目標を設定して進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者1人1人を理解し、その方々に適した対応を行っている。特に、入浴や排泄、更衣の際などに、利用者が羞恥心を感じることを無いうよう努めている。また、年長者として失礼の無いうよう、言葉掛けに注意していると共に、プライバシー保護に関する施設内研修を実施することで職員の理解を深めている。 (外部評価) 管理者と職員は、利用者の気持ちを第一に考えて信頼関係を築きながらケアに努め、利用者の尊厳やプライバシーに配慮している。声かけや言葉遣いなど、接遇の研修を年2回行い、利用者一人ひとりを尊重した対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 今年度の行動指針にも掲げているように、積極的に利用者に関わり、楽しみを見出すよう努めている。食事のメニューに利用者に食べたい物を尋ねたり、外出も利用者の希望する場所へ行けるよう常に働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 人間らしい生活をするを基本としながらも、利用者の生活歴を踏まえ、希望、意向に沿った支援ができるよう努めている。また、対応困難な利用者がある場合には、職員が根気よく接することで、利用者本位の生活が送れるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望を把握し、日々の関わりの中で見守りや声掛けを行うことで対応している。また、ご自分の好みに合った化粧品などを希望する利用者については、本人と一緒に買い物へ行ったり、職員が購入するなどしている。その他、月に2回程おしゃれの日を設けることで、希望する利用者にはマニキュアを楽しんでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様同士で会話を楽しみながら食事をされており、食事の準備、片付けもお手伝いできる方はしていただいている。また、食事メニューもバラエティに富んだものを取り入れるようにしており、毎食、料理の味に関する評価を利用者に聞き、希望に沿った内容になるよう努力している。その他、行事食にも力を入れており、お正月のおせち料理や特別行事のお弁当なども、利用者の希望に沿ったメニューを取り入れ、職員手作りでやっている。 (外部評価) 利用者の嗜好も考慮しながら、献立を作成している。プリンターでできたトマトやししとうなどの食材も取入れている。キッチンからの美味しそうな匂いや調理の音が五感を刺激し、食欲を高めている。会話が弾むよう利用者に声かけをするなど、食事が楽しい時間になるよう支援している。持てる力を活かして、準備や片付けをする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月バラエティに富んだ献立を作成し、協力医療機関の管理栄養士に栄養バランスのチェックをしていただいている。また、カロリーコントロールや水分摂取制限のある利用者については、居宅療養管理指導を受け、適切に食事管理を行っている。ターミナルケア段階の利用者、誤嚥する利用者などについては、ソフト職、ミキサー食、刻み食等の食事提供を行っている。その他利用者については、脱水症状や栄養失調、便秘とならないよう食事量、水分量に留意したケア提供を行っている。また、ご利用者1人1人の生活リズムを理解し、気付いたことは個々の介護記録に記載し、朝礼・夕の引き継ぎ、職員会議等で話し合い、全職員が情報共有できるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、ご自分でできる利用者は可能な範囲で口腔ケアを行い、その後、状態に応じ、職員が介助している。義歯を使用する利用者については、義歯を清潔に保つため、毎日義歯専用洗浄座を使用している。その確認を行うため、必ず口腔ケアの実施状況を確認票を以て行い、職員が意識してケアを行うよう努めている。また、訪問歯科協会を通じて歯科医師による定期歯科健診を実施し、治療の必要な利用者は、かかりつけ医による治療を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人1人の排泄パターンを記録に残したり、トイレに座る習慣を付けることで排泄を促し、失禁を減らす努力をしている。夜間帯は眠気でトイレが間に合わない利用者に対しては、尿器を使用することで、尿取りパットやオムツ使用量軽減に繋げている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、失敗を恐れないよう、さりげない声かけや誘導を行ない、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) バランスの取れた献立に配慮すると共に、しっかり水分摂取できるよう声掛けしている。また、毎日のラジオ体操とリハビリ訓練を行うことで、適度な運動も継続実施している。その他、排便のない場合には、個々に応じ協力医療機関の医師の指示により、整腸剤や下剤等で対応している。その際、最終排便経過を記録することにより、利用者1人1人への個別対応を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、入浴の時間や順番等は利用者様の希望に沿って対応している。また、冬には柚子湯にして季節の変化を入浴でも楽しんでいただいている。その他、必要に応じて別途シャワー浴をしたり、ターミナル利用者については清拭やドライシャンプーなどを活用して清潔保持を行っている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本にしながら、利用者の希望にあった入浴を支援している。利用者の身体状況に応じてシャワー浴やリフト浴を行なっている。入浴の苦手な利用者には、職員が優しく声かけをするなど個別の対応を工夫しながら、気持ちの良い入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 健康や生活リズムに配慮しながらも、1人1人の希望に沿い、適宜、休憩を取っていただいている。また、寝過ぎることの無いよう、日中の余暇活動の時間はできる限り全利用者に参加いただけるよう働き掛け、夜間落ち着いて眠れるよう支援している。その他、「寝ていたいんですよ」という利用者については、お約束表を作成し、規則正しい生活が送れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の一包化及び氏名・服薬時間の印字を行い、誤薬がないよう努めている。また、新しい薬が処方された場合は申し送りを徹底し、ユニット全職員が変化等観察し、必要に応じて記録している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者1人1人の生活歴や能力に応じ、できる範囲で無理の無いようお手伝いいただき、季節行事開催や外出支援などもしている。具体的には、園芸（野菜作り、花の種蒔き、収穫など）、裁縫、編み物、音楽鑑賞、外出（サツキ展、ツツジ観賞、道の駅、他施設夕涼み会出席など）、栗の里移動販売での買い物、その他季節に応じた施設行事の実施などを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 各利用者の体調も十分配慮しながら、要望等聞き、道の駅、サツキ展、ツツジなどの季節の花を見にドライブ、買い物、他施設夕涼み会への参加等といった外出支援をしている。	
			(外部評価) 事業所周辺を散歩し、地域の方にあいさつをしたり、声をかけてもらったりしている。事業所の車でスーパーや産直市などに数名ずつで出かけている。月1回、中山町からの移動販売で買い物することが、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 原則と施設施設では金銭を預からないこととしているため、利用者本人と家族の責任において金銭を所持している利用者もいる。外出時や栗の里移動販売での買い物の際、利用者本人がレジにて支払いをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を所持している利用者が2名いるが、内1名の利用者については、家族からの要望もあり、夜間は携帯電話を施設にて預かっている。その他利用者については、希望する場合には、施設話を使用して連絡が取れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 心が和むよう、施設の周りに四季折々の花や植木を植え、室内は常に明るく、また、毎月、季節ごとの作品を壁に掲示したり、各所に花や置物を設置している。更に、適度な換気や温度調整を行い、トイレ後には香りのする消臭剤を噴いたり、施設内にて定期的にお香を炊くことで、快適に過ごせるよう配慮している。夜間は安眠できるよう照明の調整を行い、安全確保のため必要な利用者には足元灯を設置している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、明るく清潔感が保たれている。季節の飾り付けなどがされた落ち着いた雰囲気の中で、利用者はゆったりと過ごすことができる。管理者や職員は、生活感や季節感を採り入れながら、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食卓も気の合う利用者同士で座っていただいたり、外にベンチを設け、1人になったり、仲良く談笑する機会を設けている。また、1階、2階の利用者交流を行い、会話などを楽しんでいる。更に、天気の良い日には全員表へ出てお茶を飲みながら話す場も提供することで、ゆったりとした時間を過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 以前使用していた物や新たに利用者が希望する家具は、安全面について相談した上で、希望する物を設置している。また、家族の思い出写真や利用者の好みに合ったパズルを飾っている。</p> <p>(外部評価) 居室内は防災に配慮して、足元には何も置かず移動がスムーズにできるようタンスやベッドが配置されている。1階の居室は電動ベッドが用意されている。テレビやラジカセ、写真、書道作品など、馴染みの品物を持ち込んで、居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 毎月のカレンダーを各自居室に掲示することで日々の確認を行えるようにしたり、毎月の様子をできるだけ多く写真に収め、思い出アルバムとして各居室に掲示している。その他、その都度、必要に応じた家具の配置や必要備品の設置などを行うことで、安全に暮らせるよう支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105834
法人名	有限会社 媛の華
事業所名	グループホーム 媛の華
所在地	愛媛県松山市別府町183番地2
自己評価作成日	平成24年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 9月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①四季折々、たくさんの花に囲まれ、季節行事を積極的に行うことで四季を体感いただいている。 ②24時間365日往診可能な協力医療機関と連携し、身体的にも精神的にも安心した生活を送ることができている。 ③職員が一体となって施設運営ができるよう、話し合う機会をより多く設け、個別面談なども行うことで職員個々のニーズに対応できるよう努めている。 ④運営方針、行動指針を掲げ、それに向かって邁進するよう、各職員が意識して業務に当たるよう努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に優しく接する管理者を中心に職員のチームワークも良く、利用者同士も仲が良い。災害対策を積極的に取り組んでおり、高く評価できる。終末期の対応については、24時間365日往診可能な協力医療機関と密に連携し、利用者がその人らしい最期を迎えることのできる体制が整っている。利用者の身体状況を把握し、状態の変化にも素早く対応できるため、利用者や家族は安心感がある。「安心・安全で楽しく、地域の中で共に支え合って生活できる場を提供します」という理念を実現するために、職員は日常会話の一つひとつを丁寧に傾聴することを大切にしている。利用者一人ひとりが、自分らしくいきいきと生活できるよう支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 媛の華

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 大原 チスカ

評価完了日 平成24年8月29日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎年度、運営方針に基づき、運営方針・行動指針を作成している。それら方針・指針は、施設内での掲示及び4月職員会議での発表により共有し、実践している。また、それらを常に念頭に置き、朝礼、夕の引き継ぎ、職員会議、職員会議後のユニット会議等において確認している。</p> <p>(外部評価) 理念は、認知症介護に必要な視点を的確に盛り込んでおり、利用者の笑顔や職員のやりがいに結び付けている。「安心・安全で楽しく、地域の中で共に支え合って生活できる場を提供します」という理念を、職員同士が確認しあって共有している。理念を常に立ち戻る基本的な考え方として大切にし、実践に結びつけている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 施設行事（地方祭、栗の里移動販売など）や運営推進会議に民生委員、地域住民の方のご参加を仰ぎ、交流している。施設の行事の際にも参加を呼び掛けたり、地域の小学生が訪問したり、地域表示への参加を通じて交流している。また、民生委員の方が家庭菜園で栽培された野菜を持って来て下さるなど、日頃より当施設のことを気に掛けて下さっている。</p> <p>(外部評価) 利用者が地域の一員としてふれあえる場面づくりや、地域の方に事業所を訪問してもらえる工夫に取り組んでいる。小学生の訪問や秋祭りでの交流など、地域とのつながりを大切にしながら暮らせるよう支援している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 民生委員、地域住民に運営推進会議へご出席いただき、近況報告や認知症に関する研修の場を設けることで、施設での取り組みを理解していただいている。また、近隣に居住する認知症の高齢者について、関係機関と適宜連絡を取り合い、事故（火災等）の発生防止に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議において、近況報告をはじめ、1階・2階のユニットの職員が交互に議題を考え、パワーポイントを活用しながらプレゼンテーションを行っている。また、出席者1人1人に意見を聞き、得られた評価、情報を参考にしてサービス向上に繋げている。具体的には、看取り介護について意見交換を行ったり、防災対策のアドバイスを取り入れるなどしている。会議終了後には会議録を回覧し、情報共有にも努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は、一年間のテーマを職員も交えて検討している。会議には、職員も参加し内容を共有している。活発な意見交換を行って詳細に記録し、次回につなげている。会議を運営上重要なものと位置づけ、サービス向上に活かせるよう積極的に取り組んでいる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議にご出席いただき、近況報告やケアサービスの取組みについて伝えている。また、運営す新会議録は毎回郵送しており、欠席があった場合でも、状況把握をしていただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日頃から市とは事務手続きなどで関わりがある。市の担当者から、新しい情報やアドバイスをもらえるよう、協力関係を築いている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>施設内研修を行い、身体拘束の定義について正しく学び、原則禁止の前提に立って介護を行っている。現在、対象となっている利用者はいない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所内で身体拘束に関する勉強会を開き、職員は理解を深めている。事業所は交通量の多い通りに面しているが、職員が見守りを徹底し、玄関は開放して自由な暮らしを支援している。夜9時から朝5時までは安全のため玄関を施錠している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止に関する施設内研修を実施し、高齢者虐待及びその防止に関する理解を深めている。日々の介護の中で利用者とのコミュニケーションをすることで、信頼関係を築くと共に、無意識のうちに虐待が行われることの無いよう声かけやケアの内容を職員相互に確認し合っている。その他、朝礼・夕の引き継ぎなどにおいても言葉掛けの仕方やケアの仕方について、管理者より指導がある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 高齢者虐待防止に関する研修の中で「成年後見制度」に関する内容を盛り込み、施設内研修を実施している。現在、2階利用者2名（内、1名は申請中）が本制度を利用しており、後見人（家族）と連絡を取りながら利用者ケアに当たっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネジャーが中心となって契約を行っており、法改正等において契約内容に変更が生じた場合には、必ず書面を以て同意を得ている。また、家族から質問を受けた際には、適宜説明を行うことにより、ご理解いただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者からの要望に対しては、本人が希望する職員（管理者含む）が傾聴し、本人の意向に沿ったケアができるよう努めている。また、家族からの要望があった場合も同様であり、いずれの場合においても、必ず管理者、職員が情報共有し、検討を行うことで、より良い運営ができるよう努めている。更に、運営推進会議のご案内を利用者家族に郵送すると共に、声掛けなどを行い、参加を促している。利用者にも運営推進会議に参加してもらっている。 (外部評価) 利用者や家族に何でも話してもらえよう、雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望はミーティングなどで話し合い速やかに対応し、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 朝礼、夕の引き継ぎ、職員会議及び個別に話し合いを行い、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。具体的には、職員会議において事前に各職員から議案を募り、その内容に沿って会議を進行したり、要所場所での提案があった場合にも可能な限り意見や提案が現実のものとなるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 日頃から良いコミュニケーションが図れるよう、管理者が職員一人ひとりに声をかけ、相談にのるようにしている。話しやすい環境づくりができています。職員会議では、議題提案書に職員が思っていることなどを記入し、会議で話し合い運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 設問の通り実践している。具体的には、介護職員処遇改善交付金において、職能に応じた配当を行ったり、給与についても職能等に応じて職員が安心して生活できるようにできる限りの努力はしている。その他、職員から申し出のあった物品購入や設備整備についても可能な範囲で行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内研修の実施、施設外研修への参加に向けた支援（シフト調整、研修費用支給など）、新任職員に対する新任研修（個別に実施）を行っている。更に、各ユニットごとに主任制度を導入することで、主任による介護技術の向上や教養指導などにも取り組んでいる。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他の施設の運営推進会議や夕涼み会に出席させていただき、交流を図り、ネットワーク拡大に努めている。また、他施設からも当施設運営推進会議等にご出席いただくことで、情報交換などを行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前調査により情報収集を行っている。受入の際には、職員全員で情報を共有し、安心して生活していただけるように信頼関係を築くよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時には、利用者、ご家族と話をすることで、不安や要望をお聞きし、安心して生活できるよう配慮している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) インテークの段階で利用者理解を行うため、できる限り多く会話する機会を持ち、支援方針に取り入れられるよう利用者の話を傾聴している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者にも新聞折り、洗濯物たたみ、作品作り、食事の下ごしらえや、お盆・食器拭きのお手伝いをお願いし、職員と共に行っている。また、本人から要望がある場合には、管理者を含む職員が話を聞き、本人が納得できるよう話し合いを行うことで、安心して生活できるよう、また、信頼関係が維持できるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月利用料請求時、利用者の近況をコメントシートにより行い、必要な連絡事項は、電話、メールを通じて行っている。また、面会時にも利用者の状況報告や家族の要望を聞き、必要に応じて話し合いの場を設けることで、共に利用者ケアが行えるよう努めている。その他、可能な範囲で施設行事への参加をお願いし、絆を大切にしていこう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族との外出支援や、毎日電話が入る利用者には快く電話を取り次ぎ、友人が訪ねて来た場合にも、お茶を出すなどして居室にてゆっくり過ごしていただいている。 (外部評価) 家族から情報を得たり、利用者との会話などから大切にしている人や場所を把握するよう努めている。近隣の知人や馴染みの洋服店の方などの訪問があったり、お気に入りの美容院へ出かけるなど、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日頃より穏やかに仲良く過ごしているが、時として利用者同士が仲たがいをすることも。そのような場合には、職員が仲裁に入り、穏やかに過ごせる支援を行っている。また、利用者同士のトラブルを避けるため、必要な場合には席替え等を行い、穏やかに生活できるよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 2階男性利用者が入院先で死亡されたことにより退所となっても、葬儀への出席や故人の思い出アルバム作成を行うことにより、最後の時まで利用者家族との時間を共有できるよう努めている。また、その利用者の息子さんから要望があり、その後、亡くなった男性利用者の奥様が入所された。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃から利用者様の生活上の希望や意向の把握に努め、ケアプランに反映している。意志疎通が困難な利用者については、家族の意向も考慮しつつ、本人の側に立ったニーズの掘り起こしをしている。	
			(外部評価) テレビを観ている時や食事時の何気ない会話など、日常の場面からも利用者の思いや意向を把握している。意思表示が困難な利用者からも、表情などから思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時だけでなく、日常の会話の中からも、それまでの生活歴や生活環境を把握するために必要な情報を得られるよう努めている。また、入所前に利用していた医療機関や介護保険サービス事業所、及び家族より情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人1人の日々の様子、健康状態を日誌、介護記録上に残し、職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 管理者をはじめ、看護師、SW、各利用者担当職員、ケアマネジャーが協働し、本人や家族の意向を反映したケアプランの作成に努めている。また、ケアプランに即した個別ケア方針を作成し、共有することで、統一したケアができるよう努めている。 (外部評価) 利用者や家族、関係者で話し合い、希望や意向を踏まえて、その人らしく暮らせるよう担当者が介護計画を作成している。ケアの実施記録は、利用者の会話など状態を詳細に記録し、計画の見直しで活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者個々の介護記録には、1日の様子、健康状態やその変化、会話の内容、訴え、要望、ケアプランの実施状況を細かく記録し、ケアプランのモニタリングに活用すると共に、情報を共有することで日々のケアに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 外出や食事の献立、買い物の依頼等、個別の要望には可能な限り対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地方祭には地域の子ども神輿に入ってもらい、祭りの雰囲気を楽しんでもらっている。また、日本舞踊、ギター演奏等のボランティアの慰問、小学生児童の訪問が、利用者の楽しみになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 24時間往診可能な協力医療機関と密に連携を取り、 利用者の身体状況の変化に素早く対応している。ま た、必要に応じて他の医療機関を紹介してもらい、専 門的な医療にも対応できている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診ができる よう支援している。協力医療機関による年1回の健診 結果は、家族と共有し、急変時なども24時間体制で 対応できるので、利用者や家族、職員も安心感があ る。眼科は個別の受診となっている。歯科医の往診も ある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の健康上の変化は、その都度、施設看護師、協 力医療機関看護師へ報告している。また、医師の指示 を受け、其々の看護師による適切な医療を受けてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者入院時には、協力医療機関と当施設から情報提 供を行い、スムーズな治療が提供されるよう支援して いる。また、退院時にも病院を訪問したり、看護師、 SWから情報提供を安心してホームで生活が再開でき るように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケア受け入れ時には、協力医療機関及び当 施設にて提供可能な医療、及びケア方針について、本 人・家族に十分な説明を行い、同意を得て施設での ターミナルケアを実施している。また、利用者の状態 の変化は適切に家族に報告すると共に、職員間で共有 し、その人らしく最期を迎えられるよう支援してい る。	
			(外部評価) 早い段階から、終末期において事業所の対応できるこ と、できないことを利用者や家族に説明している。看 取りについては、協力医療機関など関係者の協力体制 が整っており、看取りの経験もある。利用者の状態の 変化に合わせて家族等へ十分な説明を行ない情報共有 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時の対応について、施設内研修に手実演を交えながら周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災については日中、夜間想定で消防署指導の下、定期的に避難訓練を行っている。地震についても消防より地震体験車なども使いながら、実際の行動について指導を受けた。近隣住民との協力体制構築が必要であるため、次回訓練に参加いただけるよう声掛けを行う。 (外部評価) 災害対策には特に力を入れており、継続的な取り組みや新たな取り組みなど、目標を設定して進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者1人1人を理解し、その方々に適した対応を行っている。特に、入浴や排泄、更衣の際などに、利用者が羞恥心を感じることを無いうよう努めている。また、年長者として失礼の無いうよう、言葉掛けに注意していると共に、プライバシー保護に関する施設内研修を実施することで職員の理解を深めている。 (外部評価) 管理者と職員は、利用者の気持ちを第一に考えて信頼関係を築きながらケアに努め、利用者の尊厳やプライバシーに配慮している。声かけや言葉遣いなど、接遇の研修を年2回行い、利用者一人ひとりを尊重した対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が遠慮することなく、思いや要望を伝えられる関係作りに努めている。また、日常の場面場面で小さなことから自己決定できるよう声掛けするなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 人間らしい生活をするを基本としながらも、利用者が穏やかに過ごすことができるよう支援すると共に、日中活動をはじめ、季節行事の実施や希望する食事、おやつ提供によっても、可能な限り1人1人に沿った支援ができるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日常の身だしなみ以外にも、女性利用者にマニキュアを塗ったり、口紅を塗るなど、女性らしくいられる支援をしている。 また、本人・家族から購入依頼のあった衣類等は、本人の好みに合わせながらも、なるべく明るい色や柄のものを購入し、着用していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は職員手作りを基本とし、毎月1日(小豆ごはんの日)、15日(お寿司の日)(お誕生日ケーキ)を恒例メニューとしている。その他日常の献立もバラエティーに富んだものを作成しており、和洋中をはじめ、(大人様ランチ)(母の日・父の日オムライス)(韓国料理)など、多彩である。また、利用者が食材チェック(業者から届く野菜などの種類や個数の確認)、配膳、お盆拭き、食器拭き、台拭き等を手伝うことで、食事作りに参加している。	
			(外部評価) 利用者の嗜好も考慮しながら、献立を作成している。プランターでできたトマトやししとうなどの食材も取入れている。キッチンからの美味しそうな匂いや調理の音が五感を刺激し、食欲を高めている。会話が弾むよう利用者に声かけをするなど、食事が楽しい時間になるよう支援している。持てる力を活かして、準備や片付けをする利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月バラエティーに富んだ献立を作成し、協力医療機関の管理栄養士に栄養バランスのチェックをしていただいている。また、カロリーコントロールが必要な利用者については、居宅療養管理指導を受け、医療と連携しながら適切に食事管理を行っている。必要な方には、一口大にカットしたり、小分けにしてお出ししたり、また、アレルギーのある方には代替食をお出しするなど、その方に合わせた食事を提供できるよう努めている。また、水分摂取についても、おやつ以外の飲み物をお出しすることで、脱水症状を起こさないよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアをしており、必要に応じて職員が介助している。また、毎晩、ポリデントを使用して義歯消毒を実施しており、口腔ケア用品(コップ、歯ブラシなど)定期的に消毒することで、衛生管理に努めている。 更に、夜勤者が毎晩、口腔チェックを行い、それを記録しており、週に1回施設看護師による口腔チェックも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを掴み、トイレ誘導することで、失禁を減らしていくよう努めている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、失敗を恐れないよう、さりげない声かけや誘導を行ない、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 起床時にはリビングに来られた順に牛乳または冷たいお茶を飲んでいただき、食事は野菜中心のメニューで食物繊維をしっかり摂取するようにしている。また、体操、リハビリを通じて適度な運動を行うことでも、便秘にならないよう努めている。しかしどうしても便秘が続くようであれば、服薬により便秘を解消している。食後にはトイレ誘導を行い、腹部マッサージを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、その日の体調や入浴の順番を個人的に決められている利用者に留意し、できる限り利用者の意向を尊重した入浴介助ができるよう努めている。その他、必要に応じて別途シャワー浴をしたり、入浴困難な利用者については清拭やドライシャンプーなどを活用して清潔保持を行っている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本にしながら、利用者の希望にあった入浴を支援している。利用者の身体状況に応じてシャワー浴やリフト浴を行なっている。入浴の苦手な利用者には、職員が優しく声かけをするなど個別の対応を工夫しながら、気持ちの良い入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 設問の通り実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の一包化及び氏名・服薬時間の印字を行い、服用時に再確認を行うことで誤薬が無いよう努めている。また、薬の種類、処方、理由などの申し送りを徹底し、職員全体で情報共有し、観察に際し必要な記録を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) カラオケ、しりとり、ボール遊び、読書、シャボン玉、園芸(野菜作り、収穫、花の種まき)、新聞たみ、納品された野菜のチェック等できること、したい事を行っている。また、日常生活の中で、食後の食器拭き、お盆拭き等もしていただいている。その他、外出(サツキ展、ツツジ観賞、道の駅、他施設夕涼み会出席など)、栗の里移動販売での買い物、季節に応じた施設行事の実施などを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 各利用者の体調も十分配慮しながら、要望等聞き、道の駅、サツキ展、ツツジなどの季節の花を見にドライブ、買い物等といった外出支援をしている。	
			(外部評価) 事業所周辺を散歩し、地域の方にあいさつをしたり、声をかけてもらったりしている。事業所の車でスーパーや産直市などに数名ずつで出かけている。月1回、中山町からの移動販売で買い物することが、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設としては原則的に金銭を預からないこととしているが、家族と利用者の責任において、金銭を所持している利用者もいる。また、外出時の買い物にて、施設立替で利用者にレジでの支払いをお願いすることもある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族から利用者宛に電話があった際には、本人に取り次ぎ、家族との会話を楽しんでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 心が和むよう、施設の周りに四季折々の花や植木を植え、室内は常に明るく、また、毎月、季節ごとの作品を壁に掲示したり、各所に花や置物を設置している。更に、適度な換気や温度調整を行い、トイレ後には香りのする消臭剤を噴いたり、施設内にて定期的にお香を炊くことで、快適に過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) 共用空間は、明るく清潔感が保たれている。季節の飾り付けなどがされた落ち着いた雰囲気の中で、利用者はゆったりと過ごすことができる。管理者や職員は、生活感や季節感を採り入れながら、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 設問の通り実践しており、気の合う利用者同士で会話が楽しめるよう席の配置に配慮したり、ゆったり過ごせるよう天候や体調に合わせて外のベンチで過ごせるよう支援している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人が使いなれた馴染みのものや、好みの物を配置し、居心地の良い部屋になるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室内は防災に配慮して、足元には何も置かず移動がスムーズにできるようタンスやベッドが配置されている。1階の居室は電動ベッドが用意されている。テレビやラジカセ、写真、書道作品など、馴染みの品物を持ち込んで、居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室、お手洗い、浴室が分かるような飾り、プレートにして場所が分かるようにしている。特に居室については、転倒するまた、平行棒、歩行器、イージーウォーク等を活用し、運動不足の解消や利用者同士の交流を図っている。</p>	